

第8節 植物

実施区域及びその周辺には重要な植物種及び群落が存在し、工事の実施（工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る重要な種及び群落への影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行いました。

1. 調査結果の概要

1.1 調査の手法

(1) 調査項目

1) 植物相及び植生の状況

植物相（維管束植物、その他の植物：蘚苔類・地衣類）及び植生の状況

2) 重要な種及び群落の状況

- ・重要な種及び群落の生態
- ・重要な種及び群落の分布
- ・重要な種及び群落の生育の状況
- ・重要な種及び群落の生育環境の状況

(2) 調査手法

1) 植物相及び植生の状況

植物相及び植生の状況については、既存資料調査及び現地調査により把握しました。現地調査は、表 11-8-1 に示す手法により行いました。

表 11-8-1 現地調査の手法

項目			調査手法	調査手法の解説
植物相	維管束植物		直接観察及び採取	調査地域内を任意に踏査し、出現する種（シダ植物以上）を目視により確認し、種名を記録した。なお、現地での同定が困難な種については、採集し持ち帰って同定を行った。また、重要な種を確認したときは確認位置及び生育状況等を記録した。
	その他の植物	蘚苔類	直接観察及び採取	調査地域内を任意に踏査し、出現する種を目視により確認し、種名を記録した。なお、現地での同定が困難な種については、採集し持ち帰って同定を行った。また、重要な種を確認したときは確認位置及び生育状況等を記録した。
		地衣類	直接観察及び採取	調査地域内を任意に踏査し、出現する種を目視により確認し、種名を記録した。なお、現地での同定が困難な種については、採集し持ち帰って同定を行った。また、重要な種を確認したときは確認位置及び生育状況等を記録した。
植生			植生調査 （植物社会学的調査）	調査地域内に成立する代表的な植生について、各群落の構成種の状況を把握することを目的として、Braun-Blanquet (1964) に基づく植物社会学的手法（コドラート法）を用いて実施した。植物種の出現状況（被度・群度）、階層構造、優占種等を植生調査票に記録した。これらの結果をもとに群落を区分し、現存植生図を作成した。また、重要な植物群落の抽出を行った。

2) 重要な種及び群落の状況

① 重要な種及び群落の生態

重要な種及び群落の生態については、表 11-8-2 に示す図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

表 11-8-2 既存資料一覧

資料名	発行者	発行年月
国立、国定公園特別地域内 指定植物図鑑 ー南関東・東海・北近畿編ー	環境庁	昭和 58 年 4 月
山溪ハンディ図鑑 2 山に咲く花	(株)山と溪谷社	平成 8 年 9 月
生育環境別 日本野生植物館	(株)小学館	平成 9 年 7 月
山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花 離弁花①	(株)山と溪谷社	平成 12 年 4 月
日本イネ科植物図鑑	全国農村教育協会	平成 20 年 10 月
ネイチャーガイド 日本の水草	(株)文一総合出版	平成 26 年 8 月
絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 増補改訂新版	(株)山と溪谷社	平成 27 年 3 月
改訂新版 日本の野生植物 1	(株)平凡社	平成 27 年 12 月
改訂新版 日本の野生植物 2	(株)平凡社	平成 28 年 3 月
日本の野生植物 シダ	(株)平凡社	平成 4 年 3 月
日本の野生植物 コケ	(株)平凡社	平成 13 年 2 月
彦根市で大切にすべき野生動物 ーレッドデータブックひこねー	彦根市	平成 17 年 3 月
滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015 年版	滋賀県生き物総合 調査委員会	平成 28 年 3 月
滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版	滋賀県生き物総合 調査委員会	令和 3 年 3 月

② 重要な種及び群落の分布、生育の状況並びに生育環境の状況

重要な種及び群落の分布状況並びに生育状況については、表 11-8-3 及び表 11-8-4 に示す選定基準に該当する種及び群落を対象に、「1) 植物相及び植生の状況」の調査と併せて行いました。

表 11-8-3 (1) 重要な種の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
	「滋賀県文化財保護条例」 (昭和 31 年 12 月 25 日滋賀県条例第 57 号)	県天：県指定天然記念物
	対象市町（彦根市、近江八幡市、東近江市、米原市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町）の定める文化財保護条例	市天：市指定天然記念物 町天：町指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年6月5日法律第75号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特定一種：特定第一種国内希少野生動植物種 特定二種：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」 (平成18年3月30日滋賀県条例第4号)	指定：指定希少野生動植物種 希少：希少野生動植物種 ※指定希少野生動植物種及び希少野生動植物種の両方に該当する種は、指定希少野生動植物種の凡例を示した。
④	「環境省レッドリスト 2020」(令和 2 年 3 月 27 日、環境省報道発表資料)	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅（飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種） CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種） CR：絶滅危惧ⅠA 類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） EN：絶滅危惧ⅠB 類（ⅠA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種） VU：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群）

表 11-8-3 (2) 重要な種の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
⑤	「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年 版」(令和 3 年 3 月、滋賀県生き物 総合調査委員会)	絶滅：絶滅種(県内において野生で絶滅したと判断さ れる種) 絶危：絶滅危惧種(県内において絶滅の危機に瀕して いる種(亜種・変種を含む)) 絶増：絶滅危機増大種(県内において絶滅の危機が増 大している種) 希少：希少種(県内において存続基盤がぜい弱な種) 要注：要注目種(県内において評価するだけの情報が 不足しているため注目することが必要な種) 分布：分布上重要種(県内において分布上重要な種) その他：その他重要種(全国及び近隣府県の状況から 県内において注意が必要な種)
⑥	「彦根市で大切にすべき野生生物 -レッドデータブックひこね-」 (平成 17 年 3 月、彦根市)	絶滅：絶滅種(彦根市内ではすでに絶滅したと考えら れる種) 絶危：絶滅危惧種(彦根市内において絶滅の危機に瀕 している種) 危急：危急種(彦根市内において絶滅の危機が増大し ている種) 希少：希少種(彦根市内において存続基盤が脆弱な種) 要注：要注目種(彦根市内の生息・生育状況について、 今後の動向を注目すべき種及び情報が不足し ている種)
⑦	「改訂・近畿地方の保護上重要な 植物 - レッドデータブック近畿 2001-」(平成 13 年 8 月、レッドデ ータブック近畿研究会)	A：絶滅危惧種 A (近い将来における絶滅の危険性が 極めて高い種) B：絶滅危惧種 B (近い将来における絶滅の危険性が 高い種) C：絶滅危惧種 C (絶滅の危険性が高くなりつつある 種) 準：準絶滅危惧種(生育条件の変化によっては「絶滅 危惧種」に移行する要素をもつ種)
⑧	「国立・国定公園における植物の 保護対策について(指定植物)」 (令和 5 年 4 月現在、環境省 HP) 「滋賀県立自然公園条例の規定に 基づく高山植物等の指定」(昭和 41 年 3 月 11 日滋賀県告示第 93 号)	国指定：指定植物 ※琵琶湖国定公園での判定結果 県指定：指定高山植物等

表 11-8-4 重要な群落の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「滋賀県文化財保護条例」 (昭和 31 年 12 月 25 日滋賀県条例第 57 号) 及び対象市町（彦根市、近江八幡市、東近江市、米原市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町）の定める文化財保護条例	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：県指定天然記念物 市天：市指定天然記念物 町天：町指定天然記念物
②	「植物群落レッドデータ・ブック」 (平成 8 年 4 月、(財)日本自然保護協会)	保護上重要な群落として選定された植物群落 ランク 4：緊急に対策必要 ランク 3：対策必要 ランク 2：破壊の危惧 ランク 1：要注意
③	「第 2 回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 滋賀県」 (昭和 56 年、環境庁) 「第 3 回自然環境保全基礎調査」 (昭和 63 年 3 月、環境庁)	特定植物群落のうち以下の区分に該当するもの A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落又は個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、阿蘇の山地草原、各地の社寺林。特に郷土景観を代表する二次林や二次草原についてはもれの無いよう注意すること) F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群 H：その他、学術上重要な植物群落又は個体群
④	「滋賀県自然環境保全条例」 (昭和 48 年 10 月 9 日滋賀県条例第 42 号)	保全：緑地環境保全地域

(3) 調査地域

調査地域は、方法書段階の実施区域及びその端部から概ね 100m の範囲を目安に設定しました。ただし、植生の状況については、生態系の予測に必要な情報を得るため、方法書段階の実施区域及びその端部から概ね 250m の範囲を目安としました。

また、調査にあたっては、調査地域の地形、水系、植生等を踏まえて、調査地域を A～E の 5 ブロックに区分し、ブロックごとに調査結果を整理しました。

各ブロックの概要は以下に示すとおりです。

- ・ブロック A：丘陵地に二次林や植林が広がり、低地に田園が広がる範囲
- ・ブロック B：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、芹川、犬上川を含む範囲
- ・ブロック C：低地に田園が広がり、宇曽川を含む範囲
- ・ブロック D：低地に田園が広がり、宇曽川、愛知川を含む範囲
- ・ブロック E：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、愛知川を含む範囲

(4) 調査地点

調査地点及び調査ルートは、調査地域に生育する植物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生育する植物及び植生を確認しやすい場所に設定しました。

調査地点及び調査ルートは、図 11-8-1～図 11-8-4 に示すとおりです。

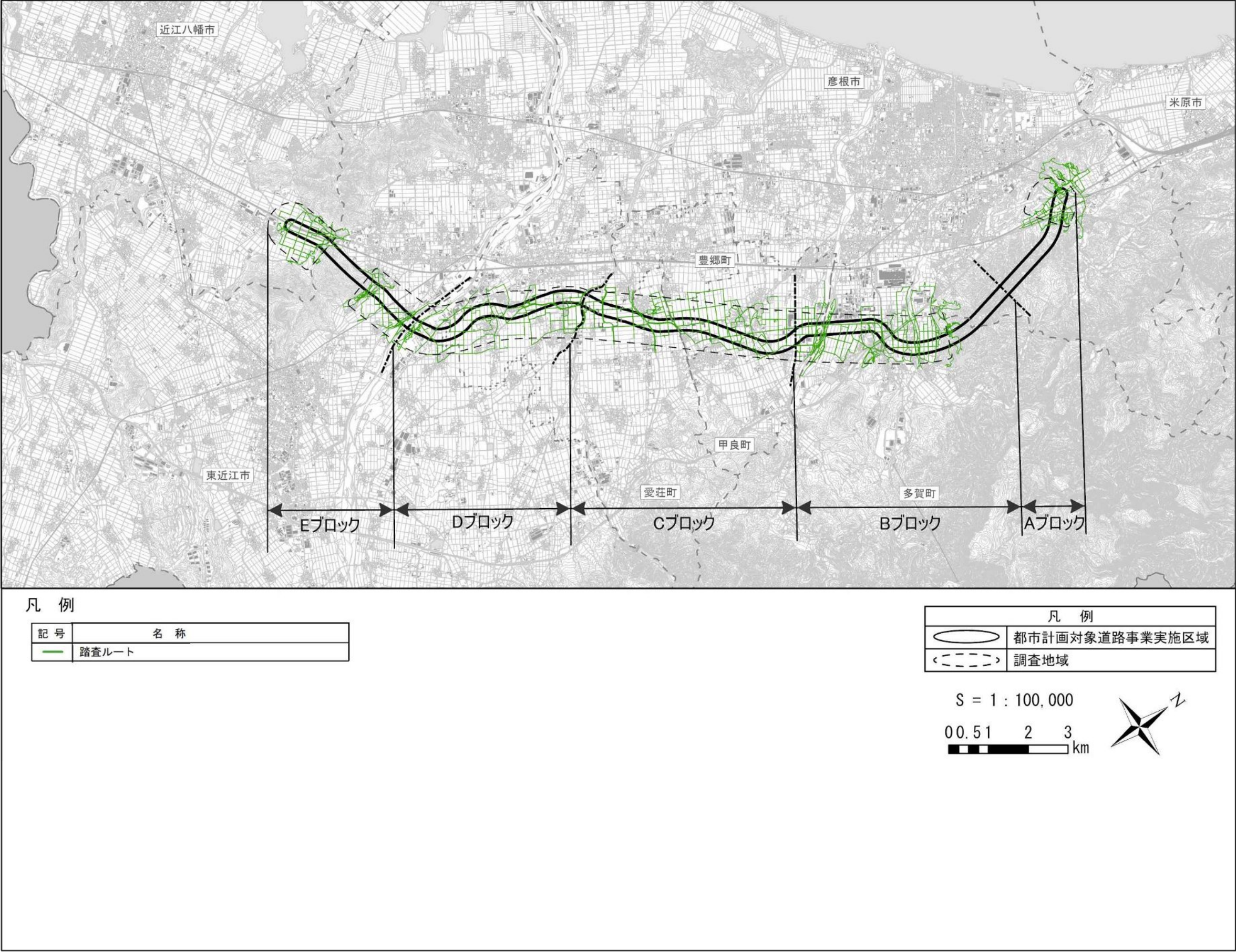
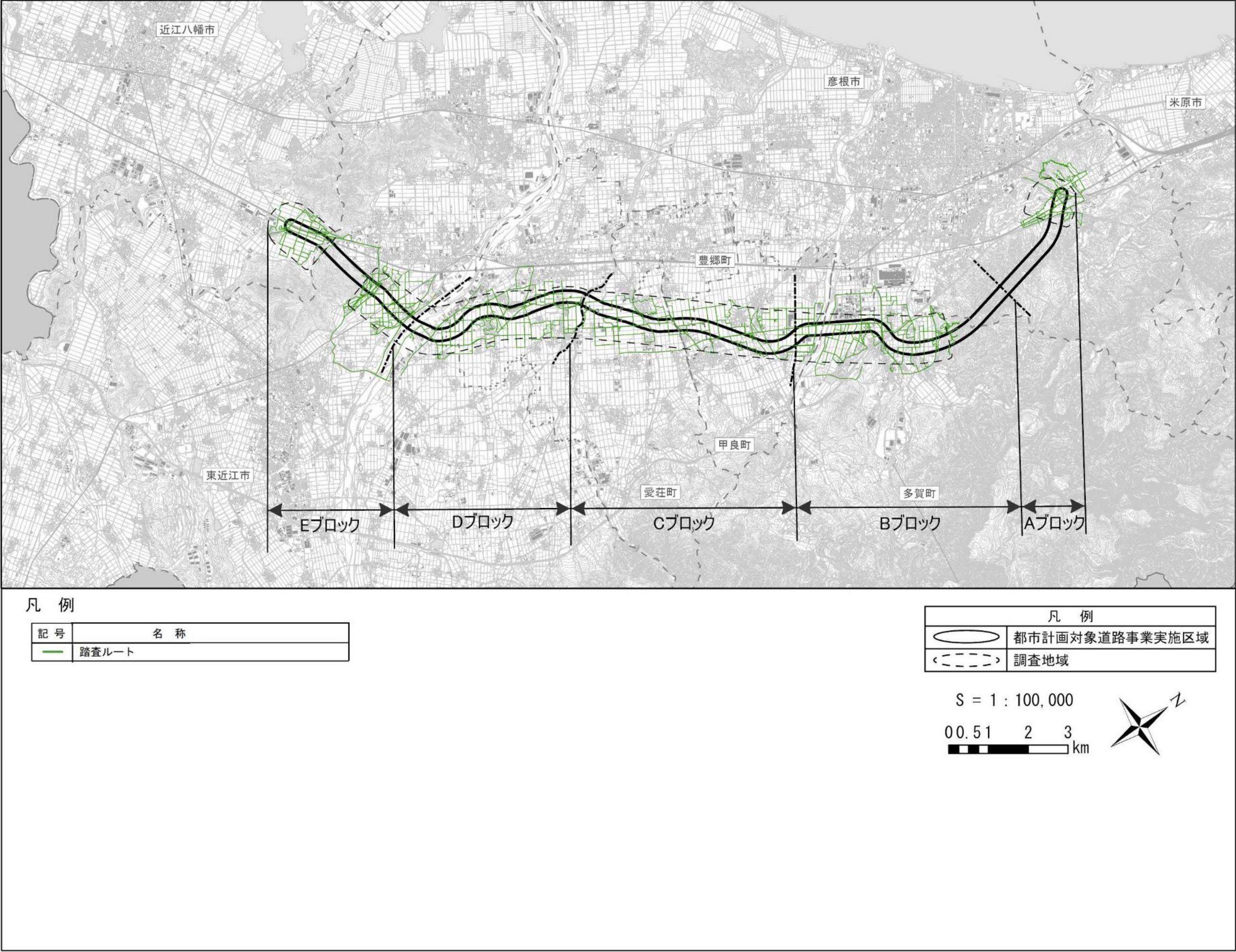
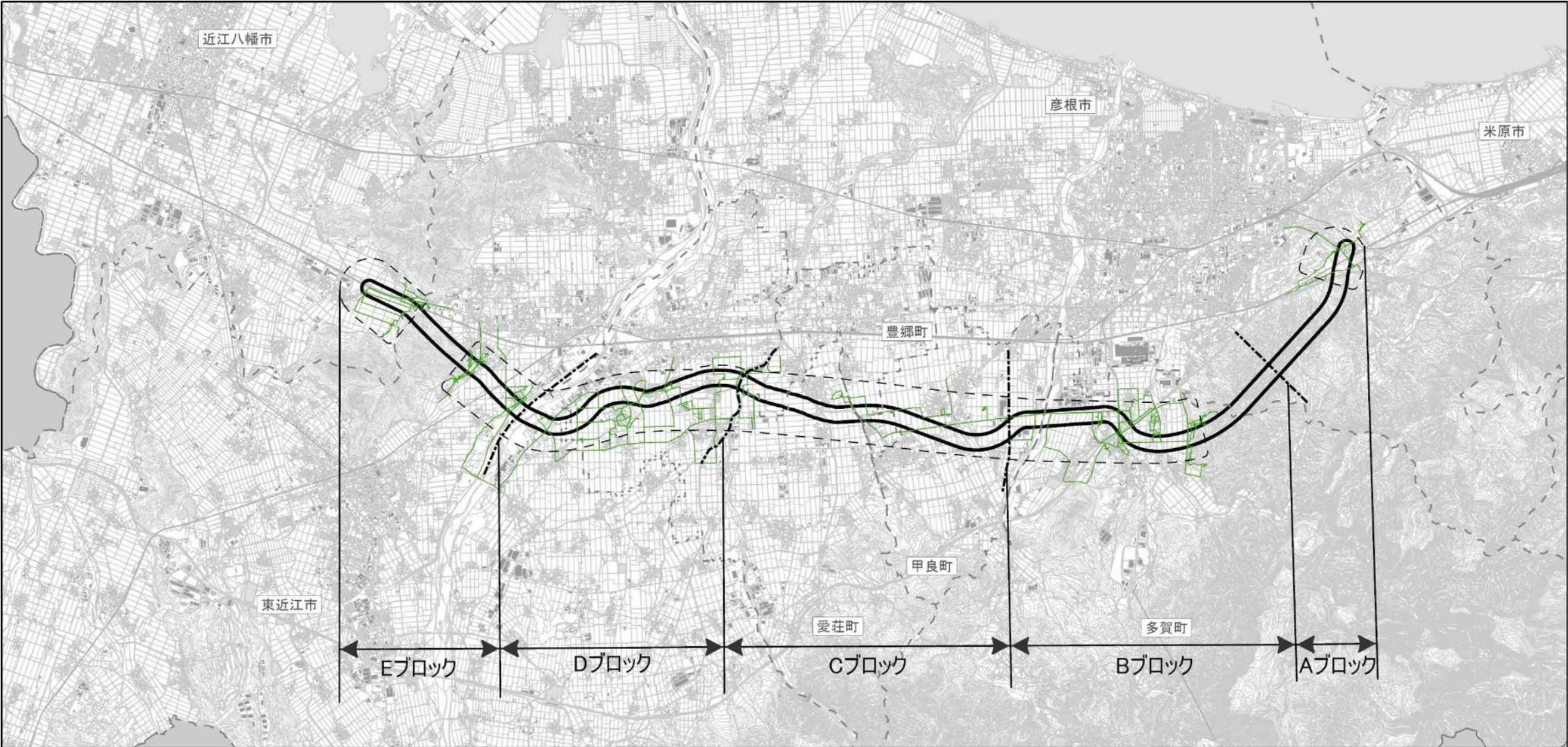


図 11-8-1 植物相（維管束植物）調査位置図





凡 例

記 号	名 称
	踏査ルート

凡 例

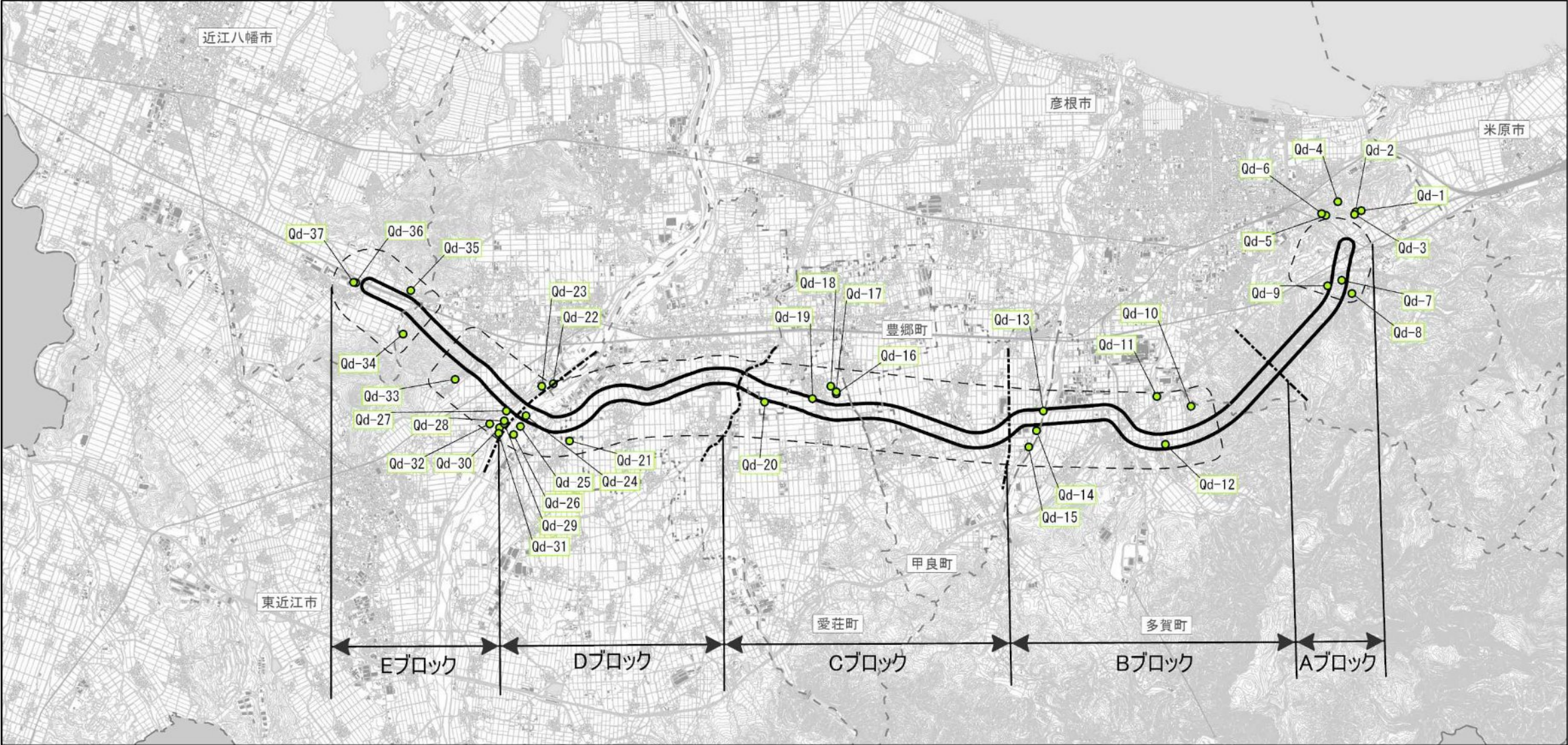
	都市計画対象道路事業実施区域
	調査地域

S = 1 : 100,000

0.5 1 2 3 km



図 11-8-3 植物相（その他の植物：地衣類）調査位置図



凡 例

記 号	名 称
●	植生群落調査地点 (Qd)

凡 例

	都市計画対象道路事業実施区域
	調査地域

S = 1 : 100,000

0 0.5 1 2 3 km



図 11-8-4 植生調査位置図

(5) 調査期間等

調査時期は、春季・夏季・秋季の3季実施を基本とし、調査地域に生育する植物の生態的な特性を考慮し、確認しやすい時期及び時間帯としました。植生調査については、春季～秋季の1回～2回程度を基本とし、植物群落を確認しやすい時期及び時間帯としました。

各項目の調査期間等は、表 11-8-5 に示すとおりです。

表 11-8-5 調査期間等

項目		調査手法	調査実施日
植物相	維管束植物	直接観察及び採取	秋 季：令和元年 11 月 5 日～8 日 早春季：令和 2 年 3 月 11 日～12 日 春 季：令和 2 年 5 月 28 日～29 日 夏 季：令和 2 年 7 月 20 日～22 日
	その 他 の 植 物	直接観察及び採取	秋 季：令和元年 11 月 5 日～8 日 春 季：令和 2 年 3 月 26 日～27 日 夏 季：令和 2 年 7 月 20 日～22 日
	地衣類	直接観察及び採取	秋 季：令和元年 11 月 23 日～24 日
植生		植生調査（植物社会学的調査）	秋 季：令和元年 11 月 5 日～8 日

1.2 調査の結果

(1) 既存資料調査結果

既存資料調査における植物相及び植生の状況、重要な種及び群落の状況の調査結果は、「第4章 第1節 5. 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況」に示すとおりです。

(2) 現地調査結果

現地調査結果の概要は、表 11-8-6 に示すとおりです。

表 11-8-6 現地調査結果の概要

項目		確認種数 及び群落数	重要な種及び群落
植物 相	維管束植物	56 目 143 科 904 種	コヒロハハナヤスリ、ヒメミズワラビ ^{※1} 、カミガモシダ、ウマノスズクサ、ミヤコアオイ、カンアオイ属 ^{※2} 、コブシ、ウリカワ、イトモ、ショウジョウバカマ、ササユリ、エビネ、ナツエビネ、エビネ属 ^{※3} 、キンラン属 ^{※4} 、サイハイラン、マヤラン、オニノヤガラ属 ^{※5} 、アケボノシュスラン、ミヤマウズラ、コ克蘭、オオバノトンボソウ、ノカンゾウ、ミクリ、ナガエミクリ、ミクリ属 ^{※6} 、コガマ、マツカサススキ、オガルカヤ、エゾノサヤヌカグサ、アゼガヤ、ユキワリイチゲ、カワラサイコ、ヒメミソハギ、マツグミ、カラタチバナ、オオイワカガミ、イワナシ、コバノミツバツツジ、リンドウ、コバノカモメヅル、シソクサ、カワヂシャ、クマツヅラ、カワラハハコ、キセルアザミ、オグルマ、レンブクソウの 45 種
	その 他 の 植 物	24 目 67 科 214 種	ヤワラゼニゴケ、ウキウキゴケ、イチョウウキゴケ、カビゴケ、オオミズゴケ、カワゴケ、コウライイチイゴケの 7 種
	地衣類	8 目 17 科 47 種	シラチャウメノキゴケの 1 種
植 生	植物群落	18 群落	奥石神社のスギーヒノキ林、老蘇の森の 2 群落
	土地利用	13 区分	

注) 種を同定できなかった「〇〇属」については、同属に所属する種が確認されている場合、種数に含めなかった。

※1) ミズワラビとして「改訂・近畿地方の保護上重要な植物 - レッドデータブック近畿 2001 -」(平成 13 年 8 月)の準絶滅危惧種に該当する。

※2) ミヤコアオイ、ヒメカンアオイ、コトウカンアオイ、ウスバサイシンの場合に該当する。

※3) エビネ、ナツエビネの場合に該当する。

※4) ギンラン、キンランの場合に該当する。

※5) アキザキヤツシロラン、クロヤツシロランの場合に該当する。

※6) ミクリ、ヤマトミクリ、ナガエミクリの場合に該当する。

1) 植物相及び植生の状況

① 植物相（維管束植物）

現地調査の結果、表 11-8-7 に示すとおり、56 目 143 科 904 種の植物（維管束植物）が確認されました。

現地調査で確認された植物（維管束植物）は、スギナ、アカマツ、オニドコロ、メヒシバ、ヤエムグラ等でした。

表 11-8-7(1) 現地調査による確認種数一覧（維管束植物）

No.	目名	科数	種数	調査時期			
				秋季	早春季	春季	夏季
1	ヒカゲノカズラ目	1	3	2	1	2	3
2	イワヒバ目	1	1			1	
3	トクサ目	1	3	2	3	3	2
4	ハナヤスリ目	1	4	1	2	2	3
5	ゼンマイ目	1	1	1		1	1
6	ウラボシ目	1	2	2	2	2	2
7	フサシダ目	1	1	1	1	1	1
8	ヘゴ目	1	2	1	2	1	2
9	ウラボシ目	10	67	46	33	30	54
10	イチョウ目	1	1			1	
11	マツ目	1	2	2	1	1	1
12	ナンヨウスギ目	1	1	1	1	1	1
13	ヒノキ目	2	4	4	2	3	3
14	シキミ目	1	2	2	2	2	2
15	センリョウ目	1	1		1		1
16	コショウ目	2	3	2		2	3
17	モクレン目	1	4	1		2	1
18	クスノキ目	1	8	6	6	6	7
19	ショウブ目	1	1			1	
20	オモダカ目	4	13	8	3	5	10
21	ヤマノイモ目	2	5	3		2	4
22	ユリ目	4	11	6	3	6	7
23	クサスギカズラ目	5	36	16	16	20	24
24	ヤシ目	1	2	1	1	2	1
25	ツユクサ目	2	6	5	1	2	5
26	ショウガ目	1	2			1	1
27	イネ目	4	147	99	23	70	82
28	キンボウゲ目	5	21	16	12	14	13
29	ユキノシタ目	4	13	7	6	7	7
30	ブドウ目	1	5	3		4	5
31	マメ目	2	33	24	9	24	23
32	バラ目	7	57	42	21	37	49
33	ブナ目	4	17	13	7	12	13
34	ウリ目	1	5	5	1	2	3
35	ニシキギ目	1	4	3	1	3	2
36	カタバミ目	1	5	3	1	4	4
37	キントラノオ目	6	29	21	7	13	15
38	フウロソウ目	1	3	2	3	3	2
39	フトモモ目	2	16	13	3	7	11
40	ミツバウツギ目	2	3	2			1
41	ムクロジ目	5	16	14	2	12	14
42	アオイ目	2	6	2	2	3	1
43	アブラナ目	1	16	7	14	9	6
44	ビャクダン目	1	1	1			
45	ナデシコ目	9	57	45	14	31	37
46	ミズキ目	2	6	4		5	5
47	ツツジ目	9	26	21	14	19	18

表 11-8-7(2) 現地調査による確認種数一覧（維管束植物）

No.	目名	科数	種数	調査時期			
				秋季	早春季	春季	夏季
48	アオキ目	1	1	1	1	1	1
49	リンドウ目	3	18	12	6	11	16
50	ナス目	2	18	15	1	7	8
51	ムラサキ目	1	6	3	2	5	4
52	シソ目	10	63	46	16	32	46
53	モチノキ目	1	7	7	3	5	5
54	キク目	2	86	60	28	54	55
55	セリ目	2	22	16	10	19	16
56	マツムシソウ目	2	11	9	3	5	9
計	56 目	143 科	904 種	133 科 629 種	94 科 291 種	123 科 518 種	132 科 610 種

注 1) 目名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」（令和 4 年 11 月、国土交通省）に従った。

注 2) 調査時期の数値は、種数を示している。

② 植物相（その他の植物：蘚苔類）

現地調査の結果、表 11-8-8 に示すとおり、24 目 67 科 214 種の蘚苔類が確認されました。

現地調査で確認された蘚苔類は、クモノスゴケ、オオミゴケ、ギンゴケ、ハイゴケ、イワイトゴケ等でした。

表 11-8-8 現地調査による確認種数一覧（蘚苔類）

No.	目名	科数	種数	調査時期		
				秋季	春季	夏季
1	ゼニゴケ目	6	14	13	7	8
2	ミズゼニゴケ目	1	2	1	2	
3	ウロコゼニゴケ目	1	1			1
4	クモノスゴケ目	1	2	1	2	1
5	フタマタゴケ目	2	3	2	1	1
6	クラマゴケモドキ目	4	19	9	10	13
7	ツボミゴケ目	9	17	9	8	8
8	ミズゴケ目	1	1	1	1	1
9	スギゴケ目	1	6	5	5	4
10	ヨツバゴケ目	1	1	1		
11	イクビゴケ目	1	1	1		
12	ヒョウタンゴケ目	1	3	2	2	1
13	クロカワナガレゴケ目	1	1	1	1	1
14	ギボウシゴケ目	2	9	7	3	7
15	シッポゴケ目	7	25	15	12	16
16	センボンゴケ目	1	14	8	7	12
17	マゴケ目	2	14	9	8	12
18	タマゴケ目	1	4	2	2	4
19	タチヒダゴケ目	1	8	3	5	1
20	ヒジキゴケ目	1	1	1	1	1
21	アブラゴケ目	3	3	2	2	3
22	ハイゴケ目	17	63	40	31	37
23	ツノゴケ目	1	1		1	1
24	ツノゴケモドキ目	1	1	1		
計	24 目	67 科	214 種	57 科 134 種	51 科 111 種	50 科 133 種

注 1) 目名及び配列は「新しい植物分類学Ⅱ」（平成 24 年、海老原他編著、講談社）に従った。センボンウリゴケ科の種名は井上・坪田（平成 27 年）に従った。

注 2) 調査時期の数値は、種数を示している。

③ 植物相（その他の植物：地衣類）

現地調査の結果、表 11-8-9 に示すとおり、8 目 17 科 47 種の地衣類が確認されました。

現地調査で確認された地衣類は、ダイダイサラゴケ、ヘリトリゴケ、シラチャウメノキゴケ、ツブダイダイゴケ、ニセモジゴケ等でした。

表 11-8-9 現地調査による確認種一覧（地衣類）

No.	目名	科名	種名	調査時期
				秋季
1	ホシゴケ	コガネゴケ	コガネゴケ（コヌカゴケ）	○
2	サラゴケ	サラゴケ	ダイダイサラゴケ	○
3	チャシブゴケ	ヘリトリゴケ	ヘリトリゴケ	○
4		ハナゴケ	ヒメジョウゴケ	○
5			コアカミゴケ（コナアカミゴケ）	○
6			ヒメレンゲゴケ	○
7			ササクレマタゴケ	○
8		キゴケ	ヤマトキゴケ	○
9		ロウソクゴケ	ロウソクゴケ	○
10		チャシブゴケ	<i>Lecanora argentata</i>	○
11			<i>Lecanora imshaugii</i>	○
12			<i>Lecanora leprosa</i>	○
13		ウメノキゴケ	シラチャウメノキゴケ	○
14			キウメノキゴケ	○
15			コナウチキウメノキゴケ	○
16			ハヤチネウメノキゴケ	○
17			トゲナシカラクサゴケ	○
18			ナミガタウメノキゴケ	○
19			ウメノキゴケ	○
20			ハクテングケ	○
21			トゲハクテングケ	○
22			マツゲゴケ	○
23			オオマツゲゴケ	○
24		カラタチゴケ	イワカラタチゴケ	○
25	チャシブゴケ	ムカデゴケ	スミイボゴケ属	○
26			コフキデリナリア	○
27			コフキゲジゲジゴケ	○
28			クロウラムカデゴケ	○
29			<i>Phaeophyscia trichophora</i>	○
30			<i>Physcia orientalis</i>	○
31			<i>Physciella denigrata</i>	○
32			<i>Physciella melanchra</i>	○
33		イワノリ	トゲカワホリゴケ	○
34		カワラゴケ	コナカワラゴケ	○
35	トリハダゴケ	トリハダゴケ	オリーブトリハダゴケモドキ(チビトリハダゴケ)	○
37			オリーブトリハダゴケ	○
37			<i>Pertusaria stenostoma</i>	○
38			コトリハダゴケ	○
39	ダイダイゴケ	ダイダイゴケ	ツブダイダイゴケ	○
40	サネゴケ	サネゴケ	サネゴケ属	○
41	オストロパ	モジゴケ	ニセモジゴケ	○
42	(モジゴケ)		コモジゴケ	○
43			ツブモジゴケ	○
44			サクラモジゴケ	○
45			ホソモジゴケ	○
46			ボンジゴケ	○
47	ハラタケ	シロソウメンタケ	キリタケ(シラウオタケ)	○
計	8 目	17 科	47 種	47 種

注) 科名及び配列は原則として「日本産地衣類の分類体系」(平成 18 年、吉村他)に従い、種名及び配列は「日本産地衣類および関連菌類のチェックリスト」(平成 16 年、Harada et al.)に従った。

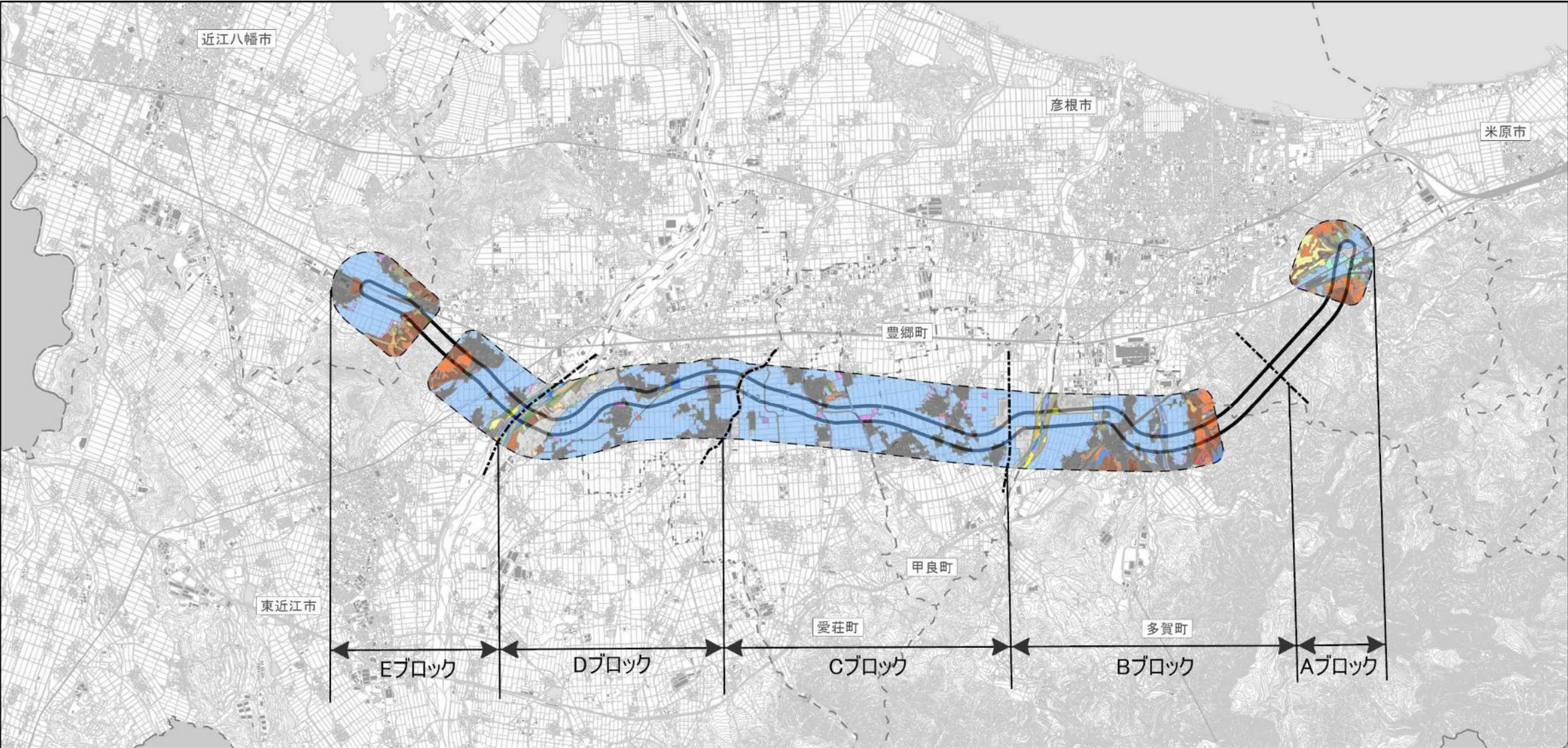
④ 植生

現地調査の結果、表 11-8-10 に示すとおり、18 群落及び 13 の土地利用が確認されました。

現存植生図は、図 11-8-5 に示すとおりです。

表 11-8-10 植物群落の概要

No.	植生区分	大区分	群落名
1	ヤブツバキクラス域 自然植生	落葉広葉樹林	ケヤキ・ムクノキ群集
2		沼沢林	ハンノキ群落
3		河辺林	ヤナギ高木群落
4	ヤブツバキクラス域 代償植生	常緑広葉樹二次林	シイ・カシ二次林
5		落葉広葉樹二次林	先駆性群落
6			アベマキ・コナラ群集
7		常緑針葉樹二次林	モチツツジ・アカマツ群集
8		タケ・ササ群落	ネザサ群落
9		低木群落	クズ群落
10		伐採跡地群落	伐採跡地群落
11	河辺・湿原・沼沢地・ 砂丘植生	ヨシクラス	ヨシクラス
12		河川敷砂礫地植生	カラハハ・ハコヨモギ群団
13			ツルヨシ群集
14		ヒルムシロクラス	外来水草群落
15		河辺一年生草本群落 (タウコギクラス等)	河辺一年生草本群落 (タウコギクラス等)
16	植林地・耕作地植生	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林
17		竹林	クロマツ植林
18			竹林
a		耕作地	畑雑草群落
b			水田雑草群落
c			放棄畑雑草群落
d			放棄水田雑草群落
e			果樹園
f			路傍・空地雑草群落
h		牧草地・ゴルフ場・芝地	ゴルフ場・芝地
k	市街地等	市街地等	市街地
l			工場地帯
m			造成地
p			残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
r			自然裸地
w			開放水域



凡 例

記 号	名 称	記 号	名 称	記 号	名 称
1	ケヤキ-ムクノキ群集	14	外来水草群落	l	工場地帯
2	ハンノキ群落	15	河辺一年生草本群落 (タウコギクラス等)	m	造成地
3	ヤナギ高木群落	16	スギ・ヒノキ・サワラ植林	p	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
4	シイ・カシ二次林	17	クロマツ植林	r	自然裸地
5	先駆性群落	18	竹林	w	開放水域
6	アベマキ-コナラ群集	a	畑雑草群落		
7	モチツツジ-アカマツ群集	b	水田雑草群落		
8	ネザサ群落	c	放棄畑雑草群落		
9	クズ群落	d	放棄水田雑草群落		
10	伐採跡地群落	e	果樹園		
11	ヨシクラス	f	路傍・空地雑草群落		
12	カワラハハコ-ヨモギ群団	h	ゴルフ場・芝地		
13	ツルヨシ群集	k	市街地		

凡 例	
	都市計画対象道路事業実施区域
	調査地域

S = 1 : 100,000

0 0.5 1 2 3 km



図 11-8-5 現存植生図

2) 重要な種及び群落の状況

① 重要な植物（維管束植物）

現地調査で確認された重要な植物（維管束植物）は、表 11-8-11 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な植物（維管束植物）はナツエビネ、ミクリ、カワヂシャ等 45 種でした。

表 11-8-11(1) 現地調査により確認された重要な植物（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	ハナヤスリ	ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ			希少		希少	危急		
2	ウラボシ	イノモトソウ	ヒメミズワラビ							準 ^{※1}	
3		チャセンシダ	カミガモシダ							B	
4	コショウ	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ						希少		
5			ミヤコアオイ								国指定
-			カンアオイ属			希少 ^{※2}	EN ^{※3}	希少 ^{※2} 分布 ^{※3}			国指定 ^{※4}
6	モクレン	モクレン	コブシ						希少	C	
7	オモダカ	オモダカ	ウリカワ						希少		
8		ヒルムシロ	イトモ				NT	その他		A	
9	ユリ	シュロソウ	ショウジョウバカマ								国指定
10		ユリ	ササユリ								国指定
11	クサスギカズラ	ラン	エビネ				NT	その他	希少		国指定
12			ナツエビネ				VU	その他	希少	A	国指定
-			エビネ属				NT ^{※5} VU ^{※6}	その他 ^{※7}	希少 ^{※7}	A ^{※6}	国指定 ^{※7}
13			キンラン属			希少 ^{※8}	VU ^{※9}	希少 ^{※8}	希少 ^{※8}	C ^{※9}	国指定 ^{※8}
14			サイハイラン						希少		国指定
15			マヤラン			指定	VU	絶危		B	
16			オニノヤガラ属			希少 ^{※10}		希少 ^{※10} その他 ^{※11}	要注 ^{※10}		
17			アケボノシュスラン								国指定
18			ミヤマウズラ								国指定
19			コ克蘭								国指定
20			オオバノトンボソウ								国指定
21		ススキノキ	ノカンゾウ			希少		希少			
22	イネ	ガマ	ミクリ				NT	その他	希少	A	
23			ナガエミクリ				NT			準	
-			ミクリ属			希少 ^{※12}	NT ^{※13}	希少 ^{※12} その他 ^{※14}	希少 ^{※15}	C ^{※12} A ^{※14} 準 ^{※16}	
24			コガマ					その他		C	
25		カヤツリグサ	マツカサススキ					その他	希少	C	
26		イネ	オガルカヤ						希少		
27			エゾノサヤヌカグサ			希少		希少			
28			アゼガヤ						希少		
29	キンボウゲ	キンボウゲ	ユキワリイチゲ			指定		絶増			
30	バラ	バラ	カワラサイコ			希少		希少	希少	A	
31	フトモモ	ミソハギ	ヒメミソハギ					その他		C	
32	ビャクダン	オオバヤドリ	マツグミ						要注		
33	ツツジ	サクラソウ	カラタチバナ					その他	希少		
34		イワウメ	オオイワカガミ								国指定
35		ツツジ	イワナシ								国指定
36			コバノミツバツツジ								国指定
37	リンドウ	リンドウ	リンドウ								国指定
38		キョウチクトウ	コバノカモメヅル					その他		C	

表 11-8-11(2) 現地調査により確認された重要な植物（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
39	シソ	オオバコ	シソクサ					その他		C	
40			カワヂシャ				NT			準	
41		クマツヅラ	クマツヅラ			希少		希少			
42	キク	キク	カワラハハコ							B	
43			キセルアザミ								国指定
44			オグルマ					その他		C	
45	マツムシソウ	ガマズミ	レンブクソウ						希少		
計	17 目	27 科	45 種	0 種	0 種	11 種	9 種	21 種	17 種	18 種	16 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

(令和 4 年 11 月、国土交通省)に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-8-3 に示すとおりである。ただし、⑧「滋賀県立自然公園条例の規定に基づく高山植物等の指定」(昭和 41 年 3 月 11 日滋賀県告示第 93 号)については、今回の調査では、ツリガネニンジン属、スミレ属、オトギリソウ属、イ属、スゲ属等に属する種は確認されているが、これらのうち、高山植物等の高山帯を中心に生育する種は確認されなかったこと、今回の調査範囲は低山に該当する(調査範囲の最高標高地点は約 300m)ことから、重要種として選定しなかった。

注 3) ノハナショウブ、アヤメ、ニラ及びシモツケは、人家近くにあり逸出個体と想定されることから重要種として選定しなかった。また、ニッケイは、日本の在来種であるが自生地は九州・沖縄地方に限られるため、人為的に移入された個体と判断し、重要種として選定しなかった。

※1) ミズワラビとして該当するランクを示す。

※2) ウスバサイシンの場合に該当するランクを示す。

※3) コトウカンアオイの場合に該当するランクを示す。

※4) ミヤコアオイ、ヒメカンアオイ、ウスバサイシンの場合に該当するランクを示す。

※5) エビネの場合に該当するランクを示す。

※6) ナツエビネの場合に該当するランクを示す。

※7) エビネ、ナツエビネの場合に該当するランクを示す。

※8) ギンラン、キンランの場合に該当するランクを示す。

※9) キンランの場合に該当するランクを示す。

※10) アキザキヤツシロランの場合に該当するランクを示す。

※11) クロヤツシロランの場合に該当するランクを示す。

※12) ヤマトミクリの場合に該当するランクを示す。

※13) ミクリ、ナガエミクリ、ヤマトミクリの場合に該当するランクを示す。

※14) ミクリの場合に該当するランクを示す。

※15) ミクリ、ヤマトミクリの場合に該当するランクを示す。

※16) ナガエミクリの場合に該当するランクを示す。

② 重要なその他の植物（蘚苔類）

現地調査で確認された重要な蘚苔類は、表 11-8-12 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な蘚苔類はヤワラゼニゴケ、ウキウキゴケ、イチョウウキゴケ、カビゴケ、オオミズゴケ、カワゴケ、コウライイチイゴケの 7 種でした。

表 11-8-12 現地調査により確認された重要な蘚苔類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	ゼニゴケ	ヤワラゼニゴケ	ヤワラゼニゴケ				VU				
2		ウキゴケ	ウキウキゴケ					要注			
3			イチョウウキゴケ				NT	その他			
4	クラマゴケモドキ	クサリゴケ	カビゴケ				NT	分布			
5	ミズゴケ	ミズゴケ	オオミズゴケ				NT	その他			指定
6	ハイゴケ	カワゴケ	カワゴケ				VU	分布			
7		ハイゴケ	コウライイチイゴケ					要注			
計	4 目	6 科	7 種	0 種	0 種	0 種	5 種	6 種	0 種	0 種	1 種

注 1) 科名及び配列は「新しい植物分類学Ⅱ」（平成 24 年、海老原他編著、講談社）に従った。

注 2) 種名及び配列は、蘚類では Suzuki（平成 28 年）に、苔類では片桐・古木（平成 30 年）に従った。

注 3) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-8-3 に示すとおりである。

③ 重要なその他の植物（地衣類）

現地調査で確認された重要な地衣類は、表 11-8-13 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な地衣類はシラチャウメノキゴケの 1 種でした。

表 11-8-13 現地調査により確認された重要な地衣類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	チャシブゴケ	ウメノキゴケ	シラチャウメノキゴケ					その他			
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種

注 1) 科名及び配列は原則として「日本産地衣類の分類体系」（平成 18 年、吉村他）に従い、種名及び配列は「日本産地衣類および関連菌類のチェックリスト」（平成 16 年、Harada et al.）に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-8-3 に示すとおりである。

④ 重要な植物群落

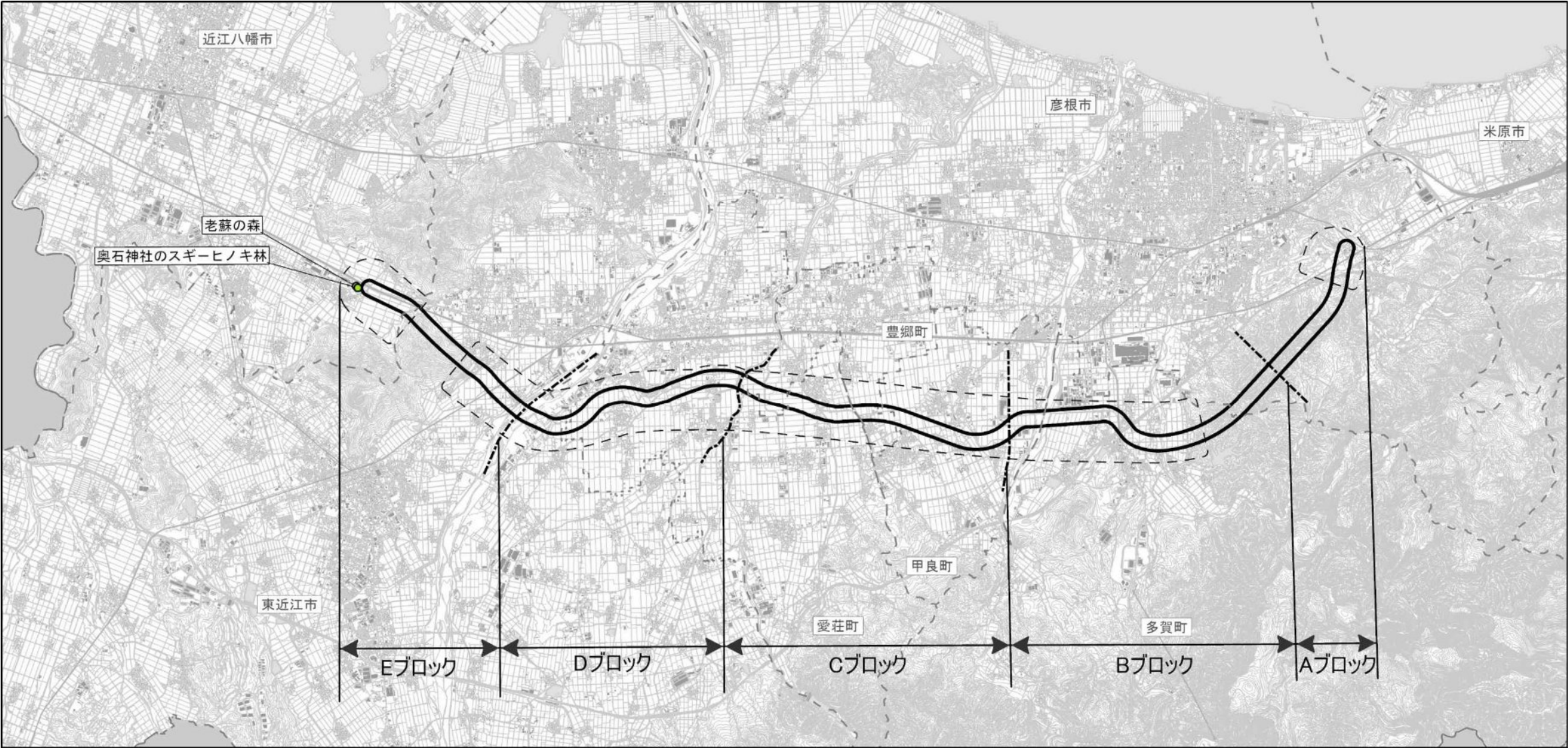
確認された重要な植物群落は表 11-8-14 に、確認位置は図 11-8-6 に示すとおりです。

現地調査の結果、重要な植物群落として「奥石神社のスギーヒノキ林」、「老蘇の森」が確認されました。

表 11-8-14 現地調査により確認された重要な植物群落

番号	群落名	選定基準及びカテゴリー			
		①	②	③	④
1	奥石神社のスギーヒノキ林		ランク 1	F, H	
2	老蘇の森				保全

注) 重要な植物群落の選定基準及びカテゴリーは、表 11-8-4 に示すとおりである。



凡 例

記 号	名 称
●	重要な群落

凡 例

○	都市計画対象道路事業実施区域
<--->	調査地域

S = 1 : 100,000

0 0.5 1 2 3 km



図 11-8-6 重要な植物群落の分布

2. 工事の実施（工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る植物

2.1 予測

(1) 予測の手法

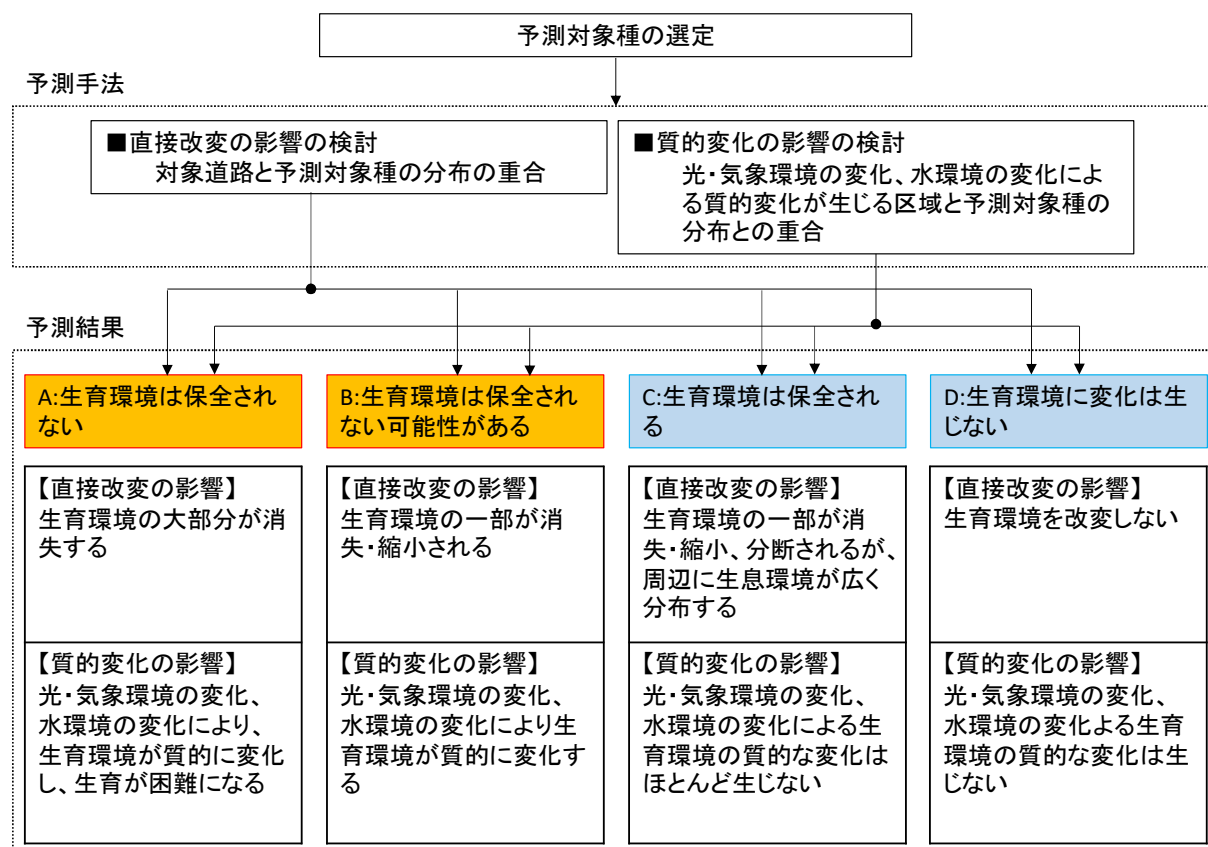
1) 予測手法

工事の実施（工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る植物への影響の予測は、「技術手法」（国総研資料第714号 13.1、13.2）に基づき行いました。

事業実施に伴う土地の改変範囲と重要な種及び群落の分布範囲から、生育地が消失・縮小する区間及びその程度を把握しました。

また、工事の実施（工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在における対象種の生態を踏まえた生育環境の質的变化の程度（日射量、水の濁り等）を把握しました。

次に、それらが重要な種及び群落の生育に及ぼす影響の程度を、科学的な知見や類似事例を参考に行いました。



注1) 直接改変の影響、質的变化の影響をそれぞれ検討し、調査地域に生育する個体のうち影響を受ける個体数の割合から、環境影響の程度(A～D)を判定する。

注2) 本フローは予測の考え方を分かりやすく表現するために作成したものである。予測は個別の種ごとに行っており、詳細は個別の予測結果に示している。

図 11-8-7 予測手順

2) 予測地域

予測地域は、調査地域としました。

3) 予測対象時期等

予測対象時期は、事業特性及び重要な種・群落の生態や特性を踏まえ、影響が最大になるおそれのある時期としました。

4) 予測対象種等の選定

予測対象種等の選定結果は、表 11-8-15 及び表 11-8-16 に示すとおりです。

予測対象種等は、現地調査で確認された重要な種及び群落としました。

現地調査における予測対象種等の確認状況については、調査区域を 5 つのブロックに区分してとりまとめました。ブロック区分は下記に示すとおりです。

- ・ブロック A：丘陵地に二次林や植林が広がり、低地に田園が広がる範囲
- ・ブロック B：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、芹川、犬上川を含む範囲
- ・ブロック C：低地に田園が広がり、宇曽川を含む範囲
- ・ブロック D：低地に田園が広がり、宇曽川、愛知川を含む範囲
- ・ブロック E：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、愛知川を含む範囲

表 11-8-15 (1) 予測対象種等の選定結果（重要な種）

No.	分類群	種名	確認ブロック区分				
			A	B	C	D	E
1	維管束植物	コヒロハハナヤスリ		●			
2		ヒメミズワラビ ^{※1}	●				●
3		カミガモシダ	●				
4		ウマノスズクサ					●
5		ミヤコアオイ		●			
6		カンアオイ属 ^{※2}		●			
7		コブシ		●			
8		ウリカワ					●
9		イトモ		●			
10		ショウジョウバカマ	●	●			●
11		ササユリ					●
12		エビネ	●	●			
13		ナツエビネ	●				
14		エビネ属 ^{※3}		●			
15		キンラン属 ^{※4}	●				
16		サイハイラン		●			
17		マヤラン	●				
18		オニノヤガラ属 ^{※5}	●				●
19		アケボノシュスラン	●				●
20		ミヤマウズラ	●				
21		コクラン	●	●			●
22		オオバノトンボソウ	●				
23		ノカンゾウ					●
24		ミクリ					●
25		ナガエミクリ					●
26		ミクリ属 ^{※6}		●			

表 11-8-15 (2) 予測対象種等の選定結果（重要な種）

No.	分類群	種名	確認ブロック区分				
			A	B	C	D	E
27	維管束植物	コガマ	●				
28		マツカサススキ	●				
29		オガルカヤ				●	
30		エゾノサヤヌカグサ		●			
31		アゼガヤ		●			
32		ユキワリイチゲ				●	
33		カワラサイコ				●	
34		ヒメミソハギ	●				
35		マツグミ		●			
36		カラタチバナ	●				
37		オオイワカガミ					●
38		イワナシ		●			
39		コバノミツバツツジ	●	●			●
40		リンドウ	●				
41		コバノカモメヅル	●				
42		シソクサ	●				
43		カワヂシャ					●
44		クマツヅラ	●	●			
45		カワラハハコ		●		●	●
46		キセルアザミ	●				
47		オグルマ					●
48		レンブクソウ		●			
49	蘚苔類	ヤワラゼニゴケ				●	
50		ウキウキゴケ					●
51		イチョウウキゴケ	●	●	●	●	●
52		カビゴケ	●				
53		オオミズゴケ	●	●			
54		カワゴケ					●
55		コウライイチイゴケ	●	●	●	●	●
56	地衣類	シラチャウメノキゴケ		●		●	●

※1) ミズワラビとして該当する。

※2) ミヤコアオイ、ヒメカンアオイ、コトウカンアオイ、ウスバサイシンの場合に該当する。

※3) エビネ、ナツエビネの場合に該当する。

※4) ギンラン、キンランの場合に該当する。

※5) アキザキヤツシロラン、クロヤツシロランの場合に該当する。

※6) ミクリ、ヤマトミクリ、ナガエミクリの場合に該当する。

表 11-8-16 予測対象種等の選定結果（重要な植物群落）

No.	群落名	確認ブロック区分				
		A	B	C	D	E
57	奥石神社のスギ・ヒノキ林・老蘇の森※					●

※) 奥石（おいそ）神社の社叢林を老蘇（おいそ）の森という。

(2) 予測の結果

1) 予測結果の概要

重要な種の予測結果の概要は表 11-8-17 に、重要な群落の予測結果の概要は表 11-8-18 に示すとおりです。

生育環境への影響の程度は以下のとおりです。

- A：生育環境は保全されない
- B：生育環境は保全されない可能性がある
- C：生育環境は保全される
- D：生育環境に変化は生じない

表 11-8-17(1) 重要な種の予測結果概要

No.	分類群	種名	生育環境への影響	
			工事の実施	道路の存在
1	維管束植物	コヒロハハナヤスリ	D	D
2		ヒメミズワラビ ^{※1}	C	C
3		カミガモシダ	D	D
4		ウマノスズクサ	D	D
5		ミヤコアオイ	D	D
6		カンアオイ属 ^{※2}	D	D
7		コブシ	D	D
8		ウリカワ	A	A
9		イトモ	C	D
10		ショウジョウバカマ	D	D
11		ササユリ	D	D
12		エビネ	D	D
13		ナツエビネ	D	D
14		エビネ属 ^{※3}	D	D
15		キンラン属 ^{※4}	D	D
16		サイハイラン	A	A
17		マヤラン	D	D
18		オニノヤガラ属 ^{※5}	D	D
19		アケボノシュスラン	D	D
20		ミヤマウズラ	D	D
21		コ克蘭	C	C
22		オオバノトンボソウ	D	D
23		ノカンゾウ	D	D
24		ミクリ	A	A
25		ナガエミクリ	C	D
26		ミクリ属 ^{※6}	C	D
27		コガマ	C	D
28		マツカサススキ	C	C
29		オガルカヤ	D	D
30		エゾノサヤヌカグサ	C	D
31		アゼガヤ	C	D
32		ユキワリイチゲ	D	D
33		カワラサイコ	D	D
34		ヒメミソハギ	C	D
35		マツグミ	D	D
36		カラタチバナ	D	D
37		オオイワカガミ	D	D
38		イワナシ	D	D
39		コバノミツバツツジ	D	D
40		リンドウ	D	D
41		コバノカモメヅル	D	D

表 11-8-17(2) 重要な種の予測結果概要

No.	分類群	種名	生育環境への影響	
			工事の実施	道路の存在
42	維管束植物	シソクサ	C	D
43		カワヂシャ	C	D
44		クマツヅラ	C	C
45		カワラハハコ	C	C
46		キセルアザミ	C	D
47		オグルマ	A	A
48		レンブクソウ	A	A
49	蘚苔類	ヤワラゼニゴケ	A	A
50		ウキウキゴケ	C	C
51		イチョウウキゴケ	C	C
52		カビゴケ	D	D
53		オオミズゴケ	C	D
54		カワゴケ	C	C
55		コウライイチイゴケ	C	C
56	地衣類	シラチャウメノキゴケ	C	C

※1) ミズワラビとして該当する。

※2) ミヤコアオイ、ヒメカンアオイ、コトウカンアオイ、ウスバサイシンの場合に該当する。

※3) エビネ、ナツエビネの場合に該当する。

※4) ギンラン、キンランの場合に該当する。

※5) アキザキヤツシロラン、クロヤツシロランの場合に該当する。

※6) ミクリ、ヤマトミクリ、ナガエミクリの場合に該当する。

表 11-8-18 重要な群落の予測結果概要

No.	群落名	生育環境への影響	
		工事の実施	道路の存在
57	奥石神社のスギ・ヒノキ林・老蘇の森※	D	D

※) 奥石（おいそ）神社の社叢林を老蘇（おいそ）の森という。

2) 予測結果

① 重要な植物（維管束植物）

重要な植物（維管束植物）の予測結果は、表 11-8-19 に示すとおりです。

表 11-8-19 (1) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（コヒロハハナヤスリ）

分布・一般生態	国内では、本州（東北地方中部以南）、四国、九州に分布します。 夏緑性のシダ植物で、暖温帯から冷温帯にかけての山野の路傍、樹林下や草原に生育しますが、社寺境内や庭園の芝生の中、墓地の刈り込まれた草地など人工的な環境にも生育していることがあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域、二次林において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：3箇所（春季20株、夏季100株）改変区域内からの距離250m以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(2) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ヒメミズワラビ）

分布・一般生態	国内では、本州（福島県以南）、四国、九州、沖縄（稀）に分布します。 池沼、水田、水路などに生育する一年生の抽水～湿生植物で、サイズと形態の変異が著しい種です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と市街地等において 10 箇所で確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ A ブロック：6 箇所（秋季 167 株）改変区域内からの距離約 140～250m 以遠 ・ E ブロック：4 箇所（秋季 92 株）改変区域内からの距離約 20～250m 以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 2 株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 2 株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		C

表 11-8-19(3) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（カミガモシダ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州（新潟県・岐阜県以西）、四国、九州に分布します。 山地の岩上や地上に生育する常緑性のシダ植物です。中軸の先端が伸びて地に接したところで芽をつけ、無性的に繁殖するので、やや密な群落を作ることがあります。			
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 夏季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・A ブロック：1 箇所（夏季 3 株）改変区域内からの距離 250m 以遠		
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的変化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的変化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D

表 11-8-19(4) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ウマノスズクサ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東以西）、四国、九州に分布します。 川の土手や畑、林の縁などに生える無毛の多年生のつる草で、6～8月に開花します。国内での結実は稀です。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（夏季5株）改変区域内からの距離250m以上
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(5) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ミヤコアオイ）

分布・一般生態	国内では、本州（近畿以西～島根県）、四国西部、九州（大分県、熊本県）の一部に分布します。 低山地の広葉樹林下に生える多年草で、花期は3～4月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（春季30株）改変区域内からの距離250m以上
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(6) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（カンアオイ属）

分布・一般生態	<p>【ミヤコアオイ（カンアオイ属）】</p> <p>本州（近畿以西～島根県）、四国西部、九州（大分県、熊本県）の一部に分布します。</p> <p>低山地の広葉樹林下に生える多年草で、花期は3～4月です。</p> <p>【ヒメカンアオイ（カンアオイ属）】</p> <p>本州（愛知県、岐阜県、長野県、石川県、富山県、紀伊半島）、四国（高知県南東部）、中国（広島県）に分布します。</p> <p>広葉樹の林床に生える多年草です。花期は2～3月です。開花期はふつう早春ですが、秋に開花する集団もあります。</p> <p>【コトウカンアオイ（カンアオイ属）】</p> <p>日本固有種で、三重県（鈴鹿山脈北部）に分布します。</p> <p>多年草で、暖温帯から中間温帯にかけての林下に生育します。花は5月中旬から下旬に開花します。</p> <p>【ウスバサイシン（カンアオイ属）】</p> <p>本州、九州（北部）に分布します。</p> <p>中間温帯から冷温帯にかけての山地の林下の湿ったところに生息します。花は、3月～5月に開花します。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の植林において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（秋季3株、夏季30株）改変区域内からの距離約140～200m
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約140m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		D
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約140m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		D

表 11-8-19(7) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（コブシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州の温帯より暖帯上部に分布します。 山地やときには低地にも生える落葉高木です。花は4月頃、葉の展開に先立って開きます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季1株）改変区域内からの距離250m以上
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(8) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ウリカワ）

分布・一般生態	国内では、本州～琉球に分布します。 水田や湿地に生える抽水性～沈水性の多年草で、地中に匍枝をのびし、先端に小さな塊茎を作って増えます。花期は、日本では7～9月です。花は単性で雌雄同株です。葉が、マクワウリの皮を縦に細くむいた状態に似ているので、「瓜皮」の名があります。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（夏季50株）改変区域内からの距離約40m
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1箇所50株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1箇所50株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。		

表 11-8-19(9) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（イトモ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 暖温帯から冷温帯にかけての湖沼やため池、水路に生育する多年生の沈水植物です。花は2段に分かれず、かたまってつきます。花期は6～8月です。			
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において1箇所を確認されました。		
	確認時期	R1 秋季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・Bブロック：1箇所（秋季50個体）改変区域内からの距離250m以遠		
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>			C
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>			D

表 11-8-19(10) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ショウジョウバカマ）

分布・一般生態	国内では、北海道～九州に分布します。 山野のやや湿ったところに生える多年草です。根出葉は多数つき、枯れないで冬を越します。花期は4～5月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林等において17箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 早春季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：8箇所（秋季1株、早春季40株、春季160株）改変区域内からの距離約70～250m以遠 ・Bブロック：2箇所（夏季12株）改変区域内からの距離250m以遠 ・Eブロック：7箇所（早春季21株、春季56株）改変区域内からの距離約60～250m以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約60m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約60m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D

表 11-8-19(11) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ササユリ）

分布・一般生態	<p>国内では、本州（中部地方以西）～九州に分布します。</p> <p>山地の草原に生える多年草で、花期は 6～7 月です。和名は「笹百合」で、葉がササの葉に似ていることからきています。葉の広いもの、狭いもの、花の白色のものなど変化があります。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・E ブロック：1 箇所（春季 20 株）改変区域内からの距離 250m 以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		

表 11-8-19(12) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（エビネ）

分布・一般生態	<p>国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>暖温帯から冷温帯にかけての落葉広葉樹林や、良く発達したスギ林等にも生育する常緑の多年草です。花期は 4～5 月です。生育期間中に葉の基部の地下にある偽球茎と呼ばれる球形のイモを発達させます。このイモは古いものから横に連なり、長い物では 10 個以上にも及びます。このイモが屈んで連なる形をエビの尾に見立てて「海老根」といいます。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と低地・台地の植林において 4 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・A ブロック：2 箇所（夏季 2 株）改変区域内からの距離 250m 以遠 ・B ブロック：2 箇所（早春季 2 株）改変区域内からの距離 250m 以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		

表 11-8-19(13) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ナツエビネ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 常緑の多年草で花期は 7～8 月です。やや湿った落葉広葉樹林の林床に生育しますが、朽ちかけた倒木や切り株上にもしばしば見られます。暖温帯から冷温帯にかけての沢沿いの湿った場所等に多く見られ、空中湿度の高いことが定着・生育にとって必要であるようです。			
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において 1 箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 夏季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・ A ブロック：1 箇所（夏季 3 株）改変区域内からの距離 250m 以遠		
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D

表 11-8-19(14) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（エビネ属）

分布・一般生態	<p>【エビネ（エビネ属）】</p> <p>国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>暖温帯から冷温帯にかけての落葉広葉樹林や、良く発達したスギ林等にも生育する常緑の多年草です。花期は 4～5 月です。生育期間中に葉の基部の地下にある偽球茎と呼ばれる球形のイモを発達させます。このイモは古いものから横に連なり、長い物では 10 個以上にも及びます。このイモが屈んで連なる形をエビの尾に見立てて「海老根」といいます。</p> <p>【ナツエビネ（エビネ属）】</p> <p>国内では、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>常緑の多年草で花期は 7～8 月です。やや湿った落葉広葉樹林の林床に生育しますが、朽ちかけた倒木や切り株上にもしばしば見られます。暖温帯から冷温帯にかけての沢沿いの湿った場所等に多く見られ、空中湿度の高いことが定着・生育にとって必要であるようです。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
対象道路周辺		・B ブロック：1 箇所（夏季 2 株）改変区域内からの距離 250m 以遠	
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D

表 11-8-19(15) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（キンラン属）

分布・一般生態	<p>【ギンラン（キンラン属）】</p> <p>国内では、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>暖温帯から冷温帯の樹林下に生えますが、生育環境は多様で、落葉広葉樹林からアカマツ林などにも生育します。多年草で、花期は5～6月です。</p> <p>【キンラン（キンラン属）】</p> <p>国内では、本州、四国、九州、屋久島、種子島に分布します。</p> <p>暖温帯の山地や丘陵地の疎林内や林縁でよく見かけますが、生育環境は多様で、落葉広葉樹林やアカマツ林、針広混交林、さらに、人里周辺の疎林や植林地などにも生育します。多年草で、花期は4～6月です。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林等において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3箇所（秋季3株、夏季8株）改変区域内からの距離250m以上
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		

表 11-8-19(16) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（サイハイラン）

分布・一般生態	<p>国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>シイ・カシ帯からブナ帯の林内に生える多年草で、基部に1枚の葉がありますが、花の終わった後に出て冬を越し、開花の頃には枯れます。花期は5～6月です。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（早春季5株、春季5株）改変区域内からの距離約5～10m
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、2箇所10株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、2箇所10株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。</p>		

表 11-8-19(17) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（マヤラン）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布します。 暖温帯から亜熱帯の常緑広葉樹林や腐植土の多い安定した二次林に生育します。 多年生で無葉の腐生植物で、花期は7～8月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季6株）改変区域内からの距離250m以上
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(18) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（オニノヤガラ属）

分布・一般生態	<p>【アキザキヤツシロラン（オニノヤガラ属）】</p> <p>国内では、本州（千葉県以西）、九州に分布します。 暖温帯の竹林や常緑広葉樹林の林床に生育する多年生の腐生植物で、腐生の菌糸に寄生します。花期は9～10月です。花期には茎をほとんど伸ばしませんが、果実期になると急に茎を伸ばす特徴があります。</p> <p>【クロヤツシロラン（オニノヤガラ属）】</p> <p>国内では、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布します。多年生の菌従属栄養植物で、暖温帯の竹林や照葉樹二次林、スギ植林などの林内に生育します。花期は9～10月で、花にキノコ臭があり、ハエが訪花して受粉します。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林と低地・台地の二次林等において6箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：5箇所（秋季28株）改変区域内からの距離約160～250m以上 ・Eブロック：1箇所（秋季2株）改変区域内からの距離約180m
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約160m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約160m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(19) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（アケボノシュスラン）

分布・一般生態	国内では、南千島、北海道～九州に分布します。 亜寒帯～暖温帯の林下に生え、花期は8～9月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林等において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季50株）改変区域内からの距離250m以上 ・Eブロック：1箇所（夏季50株）改変区域内からの距離約220m
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約220m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約220m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(20) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ミヤマウズラ）

分布・一般生態	国内では、北海道～九州、琉球（奄美大島以北）に分布します。 冷温帯～亜熱帯の林下に生え、花期は8～9月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林等において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：2箇所（夏季5株）改変区域内からの距離250m以上
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19 (21) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（コ克蘭）

分布・一般生態	国内では、本州（福島県以南）、四国、九州、琉球に分布します。 暖温帯の常緑樹林下に生え、花期は6～7月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と低地・台地の二次林等において16箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 早春季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：7箇所（秋季3株、早春季15株、春季23株） ・Bブロック：2箇所（夏季3株） ・Eブロック：7箇所（早春季65株、春季1株）
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1箇所20株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1箇所20株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		C

表 11-8-19 (22) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（オオバノトンボソウ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 シイ・カシ帯からクリ帯の雑木林に生える多年草で、花期は6～7月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季3株）
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的変化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的変化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D

表 11-8-19 (23) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ノカンゾウ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 暖温帯から冷温帯下部のやや湿り気の多い、溝の縁や野原に生え、田の畦にも見られる多年草で、花期は7～8月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（夏季1株）改変区域内からの距離250m以上
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19 (24) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ミクリ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 冷温帯から暖温帯のため池、湖沼、河川、水路等の浅い水中に群生する多年生の抽水植物です。6～8月、無柄の雌性及び雄性頭花をつけます。種子による繁殖の他、地中に地下茎を伸ばして分枝し、先端に新しい株を作り、栄養繁殖も行います。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地と、河川の水辺植生において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Eブロック：2箇所（秋季2株、夏季150株）
		対象道路周辺	・Eブロック：2箇所（夏季70株）改変区域内からの距離約0～250m以上
工事の実施による影響の予測	対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により2箇所152株が消失し、生育環境の大部分が消失します。 また、改変されない2箇所70株のうち、1箇所50株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により2箇所152株が消失し、生育環境の大部分が消失します。 また、改変されない2箇所70株のうち、1箇所50株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。		

表 11-8-19 (25) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ナガエミクリ）

分布・一般生態	国内では、本州～九州に分布します。 水位の浅い池や湿地に生育する多年草です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と市街地において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：2箇所（秋季6株）改変区域内からの距離約180～250m以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約180m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約180m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		
			C
			D

表 11-8-19 (26) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ミクリ属）

分布・一般生態	<p>【ミクリ（ミクリ属）】</p> <p>国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>冷温帯から暖温帯のため池、湖沼、河川、水路等の浅い水中に群生する多年生の抽水植物です。6～8月、無柄の雌性及び雄性頭花をつけます。種子による繁殖の他、地中に地下茎を伸ばして分枝し、先端に新しい株を作り、栄養繁殖も行います。</p> <p>【ヤマトミクリ（ミクリ属）】</p> <p>国内では、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>冷温帯から暖温帯のため池、湖沼、河川、水路等の浅い水中に群生する多年生の抽水植物です。花期は9～10月です。種子繁殖の他、地中に分枝する地下茎を伸ばして新しい株を作り栄養繁殖します。</p> <p>【ナガエミクリ（ミクリ属）】</p> <p>国内では、本州～九州に分布します。</p> <p>水位の浅い池や湿地に生育する多年草です。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
工事の実施による影響の予測		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季10株）改変区域内からの距離250m以上
		<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>	
道路の存在による影響の予測		<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>	

表 11-8-19 (27) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（コガマ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 水位の浅い池や川べりに生える多年草です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 5 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・A ブロック：5 箇所（秋季 35 株、夏季 700 株）改変区域内からの距離約 90～250m 以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 90m 離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 90m 離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		

表 11-8-19 (28) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（マツカサススキ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 暖温帯の日当たりのよい湿地に生える多年草で、花期は 8～10 月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 6 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・A ブロック：6 箇所（秋季 106 株、夏季 500 株）改変区域内からの距離約 20～250m 以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 1 株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 1 株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		

表 11-8-19 (29) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（オガルカヤ）

分布・一般生態	国内では、本州～琉球、小笠原に分布します。 丘陵地の草原に生える多年草で、花期は8～11月です。		
予測地域における 確認状況	確認状況	低地・台地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Dブロック：1箇所（夏季20株）改変区域内からの距離250m以遠
工事の実施による 影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による 影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19 (30) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（エゾノサヤヌカグサ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 冷温帯から暖温帯の湿性立地に生育する多年草で、8～10月に花をつけます。		
予測地域における 確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（秋季50株）改変区域内からの距離約70m
工事の実施による 影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約70m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による 影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約70m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(31) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（アゼガヤ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 水田の縁や畦に生育する 1 年草です。花期は 8～9 月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ B ブロック：1 箇所（秋季 100 株）改変区域内からの距離約 250m 以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D

表 11-8-19(32) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ユキワリイチゲ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州（三重県以西）、四国、九州に分布します。 暖温帯の落葉広葉樹林帯に生える早春植物で、夏には地上部はすべて枯れます。 やぶ陰などに生える多年草で、石灰岩・緑色岩地帯を好むとされています。根性葉は前年の秋に地上に出て越冬します。花期は 2〜3 月頃です。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の植林において 1 箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 早春季		
	確認位置	対象道路内	—	
		対象道路周辺	・D ブロック：1 箇所（早春季 50 株）改変区域内からの距離約 220m	
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 220m 離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 220m 離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D

表 11-8-19(33) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（カワラサイコ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 暖温帯の他の草本類などがあまり茂らない、日当たりの良い河原や湖岸の砂地に生育する多年草で、葉形がセリ科のサイコに似ていることからこの名があります。 花期は6～8月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水辺植生において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Dブロック：1箇所（夏季80株）改変区域内からの距離約60m
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約60m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約60m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(34) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（ヒメミソハギ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 熱帯から暖温帯にかけての水田や溝、平地の湿地などに生育する一年草で、花期は9～11月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（秋季10株）改変区域内からの距離約200m
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約200m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約200m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19(35) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（マツグミ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄に分布します。 松、モミ、栂などの針葉樹に寄生する、半寄生の常緑小低木です。花期は 7～8 月です。種子のまわりに粘液質があり、他物に付着します。			
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林において 4 箇所を確認されました。		
	確認時期	R1 秋季		
	確認位置	対象道路内	－	
		対象道路周辺	・ B ブロック：4 箇所（秋季 7 箇所）改変区域内からの距離約 180～250m 以遠	
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 180m 離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 180m 離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D

表 11-8-19(36) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（カラタチバナ）

分布・一般生態	国内では、本州（茨城県、新潟県以西）、四国、九州に分布します。 主に暖温帯の常緑広葉樹林の林床等に生育する常緑の小低木です。7 月頃、葉腋から花序を出し、花を散房状につけます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季	
	確認位置	対象道路内	—
対象道路周辺		・A ブロック：1 箇所（早春季 2 株）改変区域内からの距離 250m 以遠	
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		D

表 11-8-19 (37) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（オオイワカガミ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 ブナ帯からシラビソ帯の林内の岩場に生える多年草です。全体が大形で葉の長さ幅とも8～12cmになるものをオオイワカガミといいます。花期は4～6月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（早春季5株）改変区域内からの距離250m以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19 (38) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（イワナシ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東、中部以西）、四国に分布します。 ブナ帯からシラビソ帯の林縁や道端、岩場に生える常緑の匍匐性矮小低木で、花期は6～7月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（早春季10株）改変区域内からの距離250m以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-19 (39) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（コバノミツバツツジ）

分布・一般生態	国内では、本州（滋賀、岐阜、長野、静岡の各県以西）、四国、九州に分布します。 シイ・カシ帯からクリ帯の林内に生える夏緑の低木で、花期は4～5月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、田園域等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・Aブロック：2箇所（秋季6株）改変区域内からの距離250m以遠 ・Bブロック：1箇所（春季1株）改変区域内からの距離250m以遠 ・Eブロック：1箇所（春季1株）改変区域内からの距離約90m
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約90m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		D
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約90m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		D

表 11-8-19 (40) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（リンドウ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 海岸からブナ帯にいたる草原や岩場などに生える多年草で、花期は9～11月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季5株）改変区域内からの距離250m以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		D
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		D

表 11-8-19(41) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（コバノカモメヅル）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方、中部地方、近畿地方）に分布します。 暖温帯の山麓の湿性草地や湖岸のヨシ原に生育する、つる性の多年草です。花期は7～9月です。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 夏季		
	確認位置	対象道路内	—	
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季10株）改変区域内からの距離約160m	
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約160m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約160m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D

表 11-8-19(42) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（シソクサ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄に分布します。 亜熱帯から暖温帯にかけての湿地や休耕田、放棄水田、水田の溝などに生育する1年草です。軟らかくやや厚い葉肉内には透明な油点が散在し、シソの香りを出すことから「紫蘇草」の名があります。9～10月、茎上部の葉腋から葉柄を伸ばし、花を1個つけます。虫媒花で種子は重力散布します。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において3箇所を確認されました。		
	確認時期	R1 秋季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・Aブロック：3箇所（秋季20株）改変区域内からの距離約170～250m以遠		
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約170m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約170m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			D

表 11-8-19 (43) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（カワヂシャ）

分布・一般生態	国内では、本州（青森県、秋田県を除く）、四国、九州、沖縄に分布します。 河川のワンド、小川のほとりや水田に生え、水中でも育つ越年草です。冬にも葉は枯れず、小型の葉がロゼット状に伏し、春になると花茎が伸びて 4～6 月に花序がつきます。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 1 箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 春季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・E ブロック：1 箇所（春季 3 株）改変区域内からの距離 250m 以遠		
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>			C
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>			D

表 11-8-19 (44) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（クマツヅラ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄に分布します。 暖温帯から亜熱帯の平地から丘陵地の農地周辺の草地や路傍などに生育する多年草です。6～10 月に長い穂を伸ばし淡紫色の花をつけます。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において 6 箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 夏季		
	確認位置	対象道路内	—	
		対象道路周辺	・A ブロック：1 箇所（夏季 10 株）改変区域内からの距離約 240m ・B ブロック：5 箇所（夏季 46 株）改変区域内からの距離約 0～250m 以遠	
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 1 株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 1 株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。			C

表 11-8-19(45) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（カワラハハコ）

分布・一般生態	<p>国内では、北海道から九州に分布します。</p> <p>河原に見られる代表的な植物で、乾いた砂礫地に生育し、しばしば大群生します。花期は9～10月です。開花時には下部の葉が枯れます。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水辺植生と、低地・台地の二次林等において18箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1箇所（秋季2株）
		対象道路周辺	<p>・Bブロック：6箇所（秋季121株）改変区域内からの距離約70～250m以遠</p> <p>・Dブロック：8箇所（秋季1059株、春季30株）改変区域内からの距離約30～250m以遠</p> <p>・Eブロック：3箇所（秋季130株）改変区域内からの距離約190～250m以遠</p>
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により1箇所2株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、改変されない17箇所1340株のうち、1箇所9株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により1箇所2株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、改変されない17箇所1340株のうち、1箇所9株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		

表 11-8-19(46) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（キセルアザミ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 クリ帯からブナ帯の湿原に生える多年草です。根生葉は開花期に生存し、ロゼット状に広がります。花期は9～10月です。		
予測地域における確認状況	確認状況	1箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（秋季10株）改変区域内からの距離250m以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内に本種の生育環境はありません。</p> <p>対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約250m以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。</p>		

表 11-8-19(47) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（オグルマ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 暖温帯から冷温帯にかけての湿地や水田の畦畔、川岸等に生育する多年草です。7～10月、茎の先に数個の頭花をつけます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	・Eブロック：1箇所（秋季20株）
		対象道路周辺	—
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により1箇所20株が消失し、生育環境の大部分が消失します。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により1箇所20株が消失し、生育環境の大部分が消失します。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。</p>		

表 11-8-19(48) 重要な植物（維管束植物）の予測結果（レンプクソウ）

分布・一般生態	<p>国内では、北海道、本州（東北地方から近畿地方）に見られます。</p> <p>主に亜高山帯の谷沿いの林下に生育し、低山の二次林内や河川に沿った竹やぶなどにもまれに生えます。開花中から、地中浅く細い走出枝を出し、初夏に地上部が枯れるまでに 10cm 近くも伸びますが、次の年には走出枝が途中で切れるため、小群落状に殖えます。花期は低地では 3 月下旬から、山地では 5～6 月です。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林において 3 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季	
	確認位置	対象道路内	・B ブロック：1 箇所（早春季 60 株）
		対象道路周辺	・B ブロック：2 箇所（早春季 65 株）改変区域内からの距離約 40～70m
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により 1 箇所 60 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小します。</p> <p>また、改変されない 2 箇所 65 株のうち、1 箇所 60 株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により 1 箇所 60 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小します。</p> <p>また、改変されない 2 箇所 65 株のうち、1 箇所 60 株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的变化が生じ、生育が困難になる可能性が考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。</p>		

② 重要なその他の植物（蘚苔類）

重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果は、表 11-8-20 に示すとおりです。

表 11-8-20 (1) 重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果（ヤワラゼニゴケ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方以南）～琉球に分布します。 畑や人家付近の富栄養な湿った土壌、また植木の圃場や植物園の温室に生育します。胞子は早春に成熟し、無性芽はありません。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	・D ブロック：1 箇所（秋季 1 株）
		対象道路周辺	－
工事の実施による影響の予測	対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により 1 箇所 1 株が消失し、生育環境の大部分が消失します。 よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により 1 箇所 1 株が消失し、生育環境の大部分が消失します。 よって、本種の生育環境は保全されないと予測されます。		

表 11-8-20 (2) 重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果（ウキウキゴケ）

分布・一般生態	国内では、本州（埼玉県以南）、四国、九州、南西諸島に分布します。 湧水が流れる棚田、水溜りなどの水中、水を抜いた水田の表面などに生育します。水中に生育するものは分岐を続け、全体として大きな塊状になります。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地において 5 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	－
		対象道路周辺	・E ブロック：5 箇所（秋季 1 株、春季 2 株、夏季 2 株）改変区域内からの距離約 10～250m 以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内には本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 1 株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内には本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在し、1 箇所 1 株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		

表 11-8-20(3) 重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果（イチョウウキゴケ）

分布・一般生態	<p>国内では、北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布します。</p> <p>浮き草として貧栄養の池や水田に生育します。水面に浮かび、暗紫色のリボン状の仮根を垂らします。厚みのある葉状体が密に二叉分岐を繰り返し、イチョウの葉に似た扇形になります。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 47 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	<p>・Aブロック：1 箇所（春季 1 株）</p> <p>・Dブロック：1 箇所（秋季 1 株）</p>
		対象道路周辺	<p>・Aブロック：12 箇所（秋季 10 株、春季 1 株、夏季 1 株） 改変区域内からの距離約 10～250m 以遠</p> <p>・Bブロック：12 箇所（秋季 12 株） 改変区域内からの距離約 10～250m 以遠</p> <p>・Cブロック：7 箇所（秋季 5 株、夏季 2 株） 改変区域内からの距離約 50～250m 以遠</p> <p>・Dブロック：8 箇所（秋季 7 株、春季 1 株） 改変区域内からの距離約 130～250m 以遠</p> <p>・Eブロック：6 箇所（秋季 6 株） 改変区域内からの距離約 80～250m 以遠</p>
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により 2 箇所 2 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、改変されない 45 箇所 45 株のうち、6 箇所 6 株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		C
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により 2 箇所 2 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、改変されない 45 箇所 45 株のうち、6 箇所 6 株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		C

表 11-8-20(4) 重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果（カビゴケ）

分布・一般生態	国内では、本州（福島県以南）、四国、九州、南西諸島に分布します。 空中湿度が高く、比較的明るい場所の常緑樹の低木の葉、常緑シダ類の葉の上に生育します。		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・A ブロック：1 箇所（夏季 1 株）改変区域内からの距離 250m 以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-20(5) 重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果（オオミズゴケ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 やせ地の溪畔、貧栄養の立地、酸性岩地に生育します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域、二次林等において 6 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・A ブロック：3 箇所（秋季 1 株、春季 1 株、夏季 1 株）改変区域内からの距離 250m 以遠 ・B ブロック：3 箇所（秋季 3 株）改変区域内からの距離 250m 以遠
工事の実施による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路内に本種の生育環境はありません。 対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 250m 以上離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。		

表 11-8-20(6) 重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果（カワゴケ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州に分布します。 湧水が流れる水路の浅い水中の底や壁面の岩・杭などに付着して生育します。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地と、低地・台地の田園域等において9箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Eブロック：1箇所（夏季1株）
		対象道路周辺	・Eブロック：8箇所（秋季2株、春季3株、夏季3株） 改変区域内からの距離約70～250m以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により1箇所1株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約70m離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により1箇所1株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約70m離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		

表 11-8-20 (7) 重要なその他の植物（蘚苔類）の予測結果（コウライイチイゴケ）

分布・一般生態	<p>国内では、本州、四国、九州に分布します。</p> <p>水湿地、溪流沿いの湿地に生育します。扁平に葉をつけた茎は地面をはい、不規則に分岐します。本種は花序や胞子体を形成することが知られておらず、繁殖はもっぱら千切れた配偶体によるものと思われます。</p>		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、市街地等において 38 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	<ul style="list-style-type: none"> ・Aブロック：1 箇所（秋季 1 株） ・Bブロック：1 箇所（夏季 1 株） ・Dブロック：1 箇所（秋季 1 株） ・Eブロック：1 箇所（夏季 1 株）
		対象道路周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・Aブロック：7 箇所（秋季 1 株、春季 4 株、夏季 2 株） 改変区域内からの距離約 100～250m 以遠 ・Bブロック：4 箇所（春季 2 株、夏季 2 株） 改変区域内からの距離約 170～250m 以遠 ・Cブロック：9 箇所（秋季 4 株、春季 1 株、夏季 4 株） 改変区域内からの距離約 40～250m 以遠 ・Dブロック：7 箇所（秋季 3 株、春季 3 株、夏季 1 株） 改変区域内からの距離約 120～250m 以遠 ・Eブロック：7 箇所（春季 4 株、夏季 3 株） 改変区域内からの距離約 80～250m 以遠
工事の実施による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により 4 箇所 4 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、改変されない 34 箇所 34 株のうち、1 箇所 1 株の生育環境は工事の実施区域に近接していることから、工事の実施に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		
道路の存在による影響の予測	<p>対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により 4 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。</p> <p>また、改変されない 34 箇所 34 株のうち、1 箇所 1 株の生育環境は対象道路に近接していることから、道路の存在に伴い光・気象環境の変化による生育環境の質的変化が生じる可能性が考えられますが、影響が生じる個体数は僅かであることから、生育環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。</p>		

③ 重要なその他の植物（地衣類）

重要なその他の植物（地衣類）の予測結果は、表 11-8-21 に示すとおりです。

表 11-8-21 重要なその他の植物（地衣類）の予測結果（シラチャウメノキゴケ）

分布・一般生態	国内では本州 7 県の約 10 地点だけに産する希少種です。 低山性の中型の葉状地衣類で、樹皮に着生します。		
予測地域における 確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において 5 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	・B ブロック：1 箇所（秋季 1 株）
		対象道路周辺	・D ブロック：2 箇所（秋季 2 株）改変区域内からの 距離約 100～150m ・E ブロック：2 箇所（秋季 2 株）改変区域内からの 距離約 190～250m 以遠
工事の実施による 影響の予測	対象道路内には本種の生育環境が存在し、工事の実施により 1 箇所 1 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。 また、対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、工事の実施区域に最も近接する生育環境で約 100m 離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による 影響の予測	対象道路内には本種の生育環境が存在し、道路の存在により 1 箇所 1 株が消失し、生育環境の一部が消失・縮小しますが、周辺には生育環境が広く分布しています。 また、対象道路周辺には本種の生育環境が存在しますが、対象道路に最も近接する生育環境で約 100m 離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による生育環境の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本種の生育環境は保全されると予測されます。		

④ 重要な植物群落

重要な植物群落の予測結果は、表 11-8-22 に示すとおりです。

表 11-8-22 重要な植物群落の予測結果（奥石神社のスギーヒノキ林・老蘇の森）

概要	奥石（おいそ）神社の社叢林を老蘇（おいそ）の森といいます。 東海道新幹線が、安土町で国道 8 号線と交差する付近にある、鬱蒼と繁る森が老蘇の森です。老蘇の森は、多くの和歌に詠まれるなど、古来より東山道の名所として有名な森です。老蘇の森に鎮座する延喜式内社「奥石神社本記」によると、昔この地は地裂け水涌く不毛の地でしたが、孝霊天皇の世に石辺大連という名の翁が松・杉・檜等の苗を植えたところ、神の助けにより大森林に成長したと伝えられています。現在は新幹線と国道 8 号によって分割され、縮小しましたが、今なお樹齢 500 年を超える杉等の巨木が 1,400 本以上も生育する豊かな森林となっています。	
工事の実施による 影響の予測	本群落は対象道路西端より西に位置し、工事の実施による改変は生じません。群落端部から最も近接する対象道路は約 120m 離れており、工事の実施に伴う光・気象環境の変化による群落の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。	D
道路の存在による 影響の予測	本群落は対象道路西端より西に位置し、道路の存在による改変は生じません。群落端部から最も近接する対象道路は約 120m 離れており、道路の存在に伴う光・気象環境の変化による群落の質的变化は生じないと考えられます。 よって、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。	D

(3) 環境保全措置の検討

1) 環境保全措置の検討

予測の結果より、工事の実施（工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る植物への影響について、事業者の実行可能な範囲内で環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として、4案の環境保全措置を検討しました。

検討の結果、「重要な植物種の移植又は播種」、「濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」及び「工事関係者の教育」を採用します。

検討した環境保全措置は、表 11-8-23 に示すとおりです。

表 11-8-23 環境保全措置の検討

環境保全措置	実施の適否	適否の理由
重要な植物種の移植 又は播種	適	対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植又は播種を行うことにより、消失の代償が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
濁水処理施設の設置	適	濁水処理施設からの放流水は、排水基準を遵守して排水することにより、汚濁負荷量の低減効果が確実に見込めるとともに、メンテナンスを行うことにより、低減効果の持続性も十分に見込め、水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の植物の生育環境への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
河川への影響に配慮 した施工	適	河川内における基礎工事等において、濁水処理施設の設置及び仮締切工法による直接流水に接しない施工や仮設材料による一時的な流路の切り回し等を行うことにより水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の植物の生育環境への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
工事関係者の教育	適	工事関係者に環境配慮の方針や方法を説明し、工事中の影響を回避又は低減できることから、本環境保全措置を採用する。

2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

3) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「重要な植物種の移植又は播種」、「濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」及び「工事関係者の教育」の効果、実施位置、他の環境への影響について整理した結果は、表 11-8-24 に示すとおりです。

表 11-8-24(1) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体		国土交通省 近畿地方整備局
実施内容	種類	重要な植物種の移植又は播種
	位置	生育地近傍（専門家の意見を聞き決定）
保全対象		ウリカワ、サイハイラン、ミクリ、オグルマ、レンブクソウ、ヤワラゼニゴケ（対象道路及び周辺の生育環境の質的变化が及ぶ可能性のある範囲に生育する個体を対象とする。）
環境保全措置の効果		対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植又は播種を行うことにより、消失の代償が見込まれる。
効果の不確実性		移植又は播種後の活着や生育状況に不確実性が残る。
他の環境への影響		特になし

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、専門家の意見や最新の技術指針及び保全対象種の特性等を踏まえて決定する。

表 11-8-24(2) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体		国土交通省 近畿地方整備局
実施内容	種類	濁水処理施設の設置
	位置	工事の実施区域全体
環境保全措置の効果		濁水処理施設からの放流水は、排水基準を遵守して排水することにより、汚濁負荷量の低減効果が確実に見込めるとともに、メンテナンスを行うことにより、低減効果の持続性も十分に見込め、水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の植物の生育環境への影響を低減できる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		水質、動物、生態系への影響が低減される。

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性等を踏まえて決定する。

表 11-8-24(3) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体		国土交通省 近畿地方整備局
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工
	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所
環境保全措置の効果		河川内における基礎工事等において、濁水処理施設の設置及び仮締切工法による直接流水に接しない施工や仮設材料による一時的な流路の切り回し等を行うことにより水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の植物の生育環境への影響を低減できる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		水質、動物、生態系への影響が低減される。

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性等を踏まえて決定する。

表 11-8-24(4) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体		国土交通省 近畿地方整備局
実施内容	種類	工事関係者の教育
	位置	工事の実施区域全体
環境保全措置の効果		工事関係者に環境配慮の方針や方法を説明し、工事中の影響を回避又は低減できる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		動物、生態系への影響が低減される。

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性等を踏まえて決定する。

(4) 事後調査

1) 事後調査の必要性

予測は、重要な種の生育に及ぼす影響の程度を生態学的な知見や類似事例を参考に行っていることから、不確実性は小さいと考えられますが、環境保全措置（重要な植物種の移植又は播種）については、移植又は播種後のウリカワ、サイハイラン、ミクリ、オグルマ、レンブクソウ、ヤワラゼニゴケの活着に関する基礎データが不十分なため、その効果は不確実性が残ることから、表 11-8-25 に示すとおり、事後調査を実施するものとします。

なお、事後調査の実施時期及び実施方法等については、事業実施段階において、専門家等の意見を踏まえて検討し、適切に事後調査を実施します。

表 11-8-25 事後調査の概要

調査項目	調査内容	実施主体
○移植又は播種した植物の生育状況	○調査時期 各種の生活史及び生育特性等に応じて設定 ○調査範囲 移植又は播種を講じた植物の生育地 (ウリカワ、サイハイラン、ミクリ、オグルマ、レンブクソウ、ヤワラゼニゴケ) ○調査方法 移植又は播種を講じた植物の生育状況(株数、形状・生育高、開花・結実状況等)、並びに生育環境の状況確認	国土交通省 近畿地方整備局

2) 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針

事後調査の結果により、事前に予測し得ない環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家等の意見及び指導を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じます。

3) 事業調査の結果の公表の方法

事後調査の公表については、原則として事業者が行いますが、公表時期及び方法については、関係機関と連携しつつ適切に行います。

2.2 評価

(1) 評価の手法

1) 回避又は低減に係る評価

工事の実施（工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る植物への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

(2) 評価の結果

1) 回避又は低減に係る評価

対象道路は、道路の計画段階において、多くの植物が生育環境として利用している山地・丘陵地の樹林地では、大部分でトンネル構造を採用し、橋脚の設置を予定している河川では、低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要以上に橋脚の断面積を多くしない計画とし、重要な植物及び群落等の生育環境をできる限り回避した計画としています。また、工事施工ヤードは対象道路上を、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画としており、重要な植物及び群落等の生育環境への影響に配慮し、環境負荷の回避・低減を図っています。

加えて、環境保全措置として「重要な植物種の移植又は播種」、「濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」及び「工事関係者の教育」を実施することで、環境負荷を回避・低減するとともに、「重要な植物種の移植又は播種」については、移植又は播種後のウリカワ、サイハイラン、ミクリ、オグルマ、レンプクソウ、ヤワラゼニゴケの活着に関する基礎データが不十分なため、その効果は不確実性が残ることから、事後調査を実施します。

なお、予測し得ない環境上の著しい影響が生じたことが判明した場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家の意見及び指導を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じます。

このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。